

教科名	国語	科目名	論理国語	履修学年	中学 高校	3 年	1.2.3.6.7	組	
単位数	2	使用教科書 補助教材等	三省堂 『精選 論理国語』						
担当者	奥原 もな美		三省堂 『精選 論理国語』 課題ノート 新しい共通テスト 国語対策問題集現代文編実践レベル						
学習目標	文章の構造理解を通して、論理的に文章を読解する能力を高めるとともに、記述式解答作成の実践練習をし、文章作成力の向上・定着を目指す。 大学入試に適應できる読解力・記述力を養成することを目標とする。								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む姿勢			
評価規準	主張と論拠など事柄同士の関係について理解することができる。問われている内容を正確に理解し、適切に解答することができる。		「書くこと」：自分の考えが、状況に合わせて的確に伝わるように表現を工夫している。 「読むこと」：内容や構成、論理の展開についての確にとらえ主張や主題・要点を理解することができる。			使用した教材のみならず、様々な状況に応じて学んだことを必要に応じて活用することができる。			
各観点の授業内 評価方法等	定期考査			①単元終了時の「研究課題」 ②振り返りシート等を用いた自己調整のモニタリング					
	平素の小テスト・課題・提出物等								
	使用テキストにおける習熟度								
	※各観点における評価方法は、横断的に実施することがある。								
学期末の 各観点比率(%)	40%		40%			20%			
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間 数	評価 区分 1	評価 区分 2
1	4	ガイダンス 『「である」ことと「する」こと』丸山真男					1 3 3 7	中間 考査	研究 課題 ①
	5	『擬似群衆の時代』湊千尋 中間考査							
	6	○問題集を使用しての共通テスト 対策 ○過去問題を使用しての私大試験対策							
	7	期末考査					2 3 3 8	期 末 考 査	
	8	○問題集を使用しての共通テスト 対策 ○過去問題を使用しての私大試験対策							
	9	○国公立記述対策							
2	10	期末考査					10	中 間 考 査	研究 課題 ②
	11	○問題集を使用しての共通テスト 対策 ○過去問題を使用しての私大試験対策 ○国公立記述対策							
	12						9	期 末 考 査	
	1								
3	2								実 習 課 題
	3								
	※進捗状況等により、教材・取り扱う内容の変更の可能性がある。								

教科名	国語	科目名	論理国語	履修学年	中学 高校	3 年	4, 5, 8, 9 組		
単位数	2	使用教科書 補助教材等	三省堂 『精選 論理国語』						
担当者	関沢由紀子 奥原 もな美		三省堂 『精選 論理国語』 課題ノート						
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の意図を確実に理解することにより、様々な立場から世界を見て、自分の考えを持つことができる。</li> <li>自分の思考を言葉にして、相手に伝えることができる。</li> </ul> 3年次は特に論理的文章における主張を把握できることを目標とする。								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢				
評価規準	主張と論拠など事柄同士の関係について理解することができる。言葉の意味を適切に理解し、自分の表現活動に活かすことができる。		「書くこと」：自分の考えが、状況に合わせて的確に伝わるように表現を工夫している。また表現することにより思索を深めている。 「読むこと」：内容や構成、論理の展開についての確にとらえ主張や主題・要点を理解することができる。		各単元において、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤できる。				
各観点の授業内 評価方法等	定期考査		①単元終了時の「研究課題」		②振り返りシート等を用いた自己調整のモニタリング				
	平素の小テスト・課題・提出物等								
※各観点における評価方法は、横断的に実施することがある。									
学期末の 各観点比率(%)	40%		40%		20%				
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間数	評価区分1	評価区分2
1	4	ガイダンス 『「である」ことと「する」こと』丸山真男					1	中間考査	研究課題①
	5	『擬似群衆の時代』湊千尋					3		
		中間考査					3		
	6	『スポーツとナショナリズム』阿部潔					2	期末考査	
		『「文化が違う」とは何を意味するのか?』岡真理					3		
	7	期末考査					3		
8	『生命とのかかわり-精神科医として-』木村敏					8	2		
2	9	『リスク社会論』大澤真幸 演習問題等					2	中間考査	研究課題②
	10	期末考査					1		
							3		
	4	10	4	2	3	9			
3	1						2	実習課題	
	2						3		
							12		
3	※単元・作品に応じて、+αの教材を用いて、演習を行う。 ※到達度・進捗状況等により、教材・取り扱う内容の変更の可能性が								

教科名	国語	科目名	文学国語	履修学年	中学 <b>高校</b>	3 年	1・3・6	組	
単位数	2	使用教科書 補助教材等	三省堂『精選 文学国語』 桐原書店「新しい共通テスト 国語対策問題集 現代文編」 その他適宜プリント 等教材						
担当者	松永 航平 竹内 宙明								
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面ごとの登場人物の心情を正確に読み取り、物語のテーマについて考えることができる。</li> <li>物語の構造をとらえ、テキスト分析の手法を身につけることによって、論理的に物語を解釈することができる。</li> <li>私大・国公立二次・共通テストの問題に対応することができる。</li> </ul>								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む姿勢			
評価規準	物語の構造、視点や象徴などの分析の観点について理解する。 場面の転換点を把握し、それぞれの場面において、「できごと・会話→感情の動き→行動」という流れを把握する。		「書くこと」：物語のプロットを抜き出すことで、要点を押さえて要約する。テキスト内の記述に基づきながら物語を解釈し、表現する。 「読むこと」：視点、場面の転換、表現の特徴など、効果的に用いられている仕掛けに気づき、その効果を説明することができる。			各単元において、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤できる。			
各観点の授業内 評価方法等	定期考査			①「研究課題」 ②振り返りシート等を用いた自己調整のモニタリング					
	平素の小テスト・課題・提出物等								
※各観点における評価方法は、横断的に実施することがある。									
学期末の 各観点比率(%)	40%		40%			20%			
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間 数	評価 区分 1	評価 区分 2
1	4	ガイダンス 過去問等演習問題を用いた演習 定期的に教科書の作品をとりあげ、分析・精査を行う 「鞆」「永訣の朝」「檸檬」「陰影礼賛」「舞姫」					7	中間 考査	
	5	中間考査							
	6						9	期末 考査	
	7	期末考査							
	8								
	9								
2	9						8	学年 末考査	
	10	学年末考査							
	11						11		
	12								
3	1								
	2								
	3	※単元・作品に応じて、+αの教材を用いて、演習を行う。 ※到達度・進捗状況等により、教材・取り扱う内容の変更の可能性が							

教科名	国語	科目名	古典探究	履修学年	中学 高校	3 年	1・3・6	組	
単位数	2	使用教科書 補助教材等	桐原書店「新しい共通テスト 国語対策問題集 古典編」 桐原書店「重要古文単語315」・「基礎から解釈へ 漢文必携」 その他適宜プリント 等教材						
担当者	松永 航平 竹内 宙明								
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで習得した知識(文法・単語・古典常識等)を用いて、古典の大学入試問題を解けるようにする。</li> <li>私大・国公立二次・共通テストにかかわる問題演習を行い、70~80%の得点率を目指す。</li> <li>できる限りさまざまな作品・ジャンルを扱うことで、どんな文章にも対峙できるようにする。</li> </ul>								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢				
評価規準	「古典探究」の評価規準をベースに、模試・共通テスト・各大学入試の出題に十分対応できる知識・技能を有している。(基本的に「古典探究」の文章・内容を踏襲する)		「古典探究」の評価規準をベースに、本科目の【知識・技能】を応用させ、模試・共通テスト・各大学入試のハイレベルな出題に十分対応できる。(基本的に「古典探究」の文章・内容を踏襲する)		各単元において、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤できる。				
各観点の授業内 評価方法等	定期考査		平素の小テスト・課題・提出物等		振り返りシート等を用いた自己調整のモニタリング				
	※各観点における評価方法は、横断的に実施することがある。								
	学期末の 各観点比率(%)	40%		40%		20%			
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間 数	評価 区分 1	評価 区分 2
1	4	(古文) 「山吹の花」 「木屑録序文」 過去問等演習問題を用いた演習					7	中間 考査	
	5	中間考査							
	6						9	期末 考査	
	7	期末考査							
	8								
2	9						8	学年 末考査	
	10	学年末考査							
	11						11		
	12	▼							
3	1								
	2								
	3	※単元・作品に応じて、+αの教材を用いて、演習を行う。 ※到達度・進捗状況等により、教材・取り扱う内容の変更の可能性が							

教科名	国語	科目名	自選古典	履修学年	中学 <b>高校</b>	3 年	全 組	
単位数	2	使用教科書 補助教材等	桐原書店「新しい共通テスト 国語対策問題集 古典編」 桐原書店「重要古文単語315」・「基礎から解釈へ 漢文必携」 その他適宜プリント 等教材					
担当者	松永 航平							
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで習得した知識(文法・単語・古典常識等)を用いて、古典の大学入試問題を解けるようにする。</li> <li>共通テスト 対策の問題演習を行い、70~80%の得点率を目指す。</li> <li>できる限りさまざまな作品・ジャンルを扱うことで、どんな文章にも対峙できるようにする。</li> </ul>							
評価方法								
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢			
評価規準	我が国の伝統的な言語文化の特徴的な語句・表現に親しみ、適切に理解し使用している。 古典の文学世界に親しむために、作品や歴史的・文化的背景を適切に理解している。 模試や大学入試に十分対応できる知識・技能を有している。		知識・技能を前提とし、応用的な出題に対する差根拠・再現性をもった解答をすることができる。		【知識・技能】【思考・判断・表現】を身につけようとする中で、年度を通して自己調整に取り組んでいる。			
各観点の授業内 評価方法等	定期考査		平素の小テスト・課題・提出物等		振り返りシート等を用いた自己調整のモニタリング			
	※各観点における評価方法は、横断的に実施することがある。							
学期末の 各観点比率(%)	40%		40%		20%			
授業計画								
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等				時間数	評価区分1	評価区分2
1	4	問題演習スキルの確認 重要知識・技能の確認				6	中間考査	
	5	共通テスト 対策問題集を用いた演習 中間考査						
	6					10	期末考査	
	7	期末考査						
	8							
2	9	↓				6	学年末考査	
	10							学年末考査
	11					12	期末考査	
	12							
3	1							実習課題
	2							
	3	※単元・作品に応じて、+αの教材を用いて、演習を行う。 ※到達度・進捗状況等により、教材・取り扱う内容の変更の可能性が						